

寄生植物

Yakushima birdlime / *Balanophora yakushimensis* / Yakushima

tsuchitorimochi / ヤクシマツチトリモチ

この寄生植物は奄美大島と近隣の島だけに生息する固有種である。高さ3～10cmほどになり、山林の広葉樹、主にイジユの根に寄生する。短い寄生根で固定し、宿主の組織から養分を吸収する。鱗のような葉はオレンジがかった茶色で、地面の根茎から直接生える。小さく鮮やかな赤い花が密集し、いちごのような2～4cmの楕円形を形成する。奄美大島ではよく島の最高峰、湯湾岳の山頂で見られる。

Samurai's footman / *Mitrastemonaceae Yamamotoi* / Yakkoso / ヤッコソウ

奇妙な形をした10cmほどの寄生植物で、奄美大島のスダジイの根に育つ。寄生しているため、緑の葉は必要とせず、自ら養分を作り出すため、色は淡い白で年と共に濃くなっていく。縦長の筒状の花は両性花で10月中旬に地面から顔を出す。雄花が枯れると、帽子状の雄しべが落ち、柱状の雌花が残る。小鳥や昆虫が葉の付け根にたまった蜜を食すことによって、意図なく植物の受粉を助けている。ヤッコソウは、形が江戸時代(1603-1867)の武家の中間から和名が付けられた。